

## I 行進曲「煌めきの朝」

作曲：牧野圭吾

- ・この曲は多くの場面でリズムとハーモニーが大切になってきます。スケールやカデンツを使って、曲に出てくるリズムパターン練習をすると、色々な音域の発音を揃えられると思います。
- ・裏打ちの部分は、テンポを落として四分音符や二分音符にして練習すると、ハーモニー進行が確認しやすくなります。(参考教材 JBCバンドスタディ No.5, 20など)
- ・ユニゾンでは低めの音域までスラーで下行するので、力まず丁寧に息を入れるようにしてみてください。
- ・39小節目はリップスラーの練習を取り入れて、なめらかに演奏できるようにしましょう。(参考教材 JBC ステップ17)
- ・一曲通して休みがありません。演奏前に水抜きするのを忘れないようにしましょう。

## II ポロネーズとアリア ~吹奏楽のために~

作曲：宮下 秀樹

- ・ホルンが旋律を担当する場面や、ホルンだけの動きが多く出てくる曲です。楽器をよく鳴らして響きを豊かにすることを意識しましょう。
- ・冒頭はCisやFisで長い管を使うので、外れたりこもったりしやすいところです。息をしっかり使うことやスラーの切れ目でのクリアなタンギングを練習しましょう。
- ・ユニゾンの後に声部が分かれる部分も多いです。分かれたときに、各声部が急に弱くなって聞こえないように、バランスも気をつけることが大切です。
- ・16や20小節目にある三連符は、トリプルタンギングで演奏するのがいいと思います。TKT (タ・カ・タ) TTK (タ・タ・カ) の発音を用いて、息の流れを止めないよう気をつけながら軽やかにタンギングできるようにしましょう。(参考教材 JBC ステップ16)

## HORN

## ワンポイント・アドバイス

## Ⅲ レトロ

作曲：天野正道

- ・この曲は主に、テンポが速いところでのスピード感とタンギングや指のテクニックが求められます。基礎練習の時に、曲のテンポでも練習すると良いでしょう。(参考教材 JBCバンドスタディ ステップ16,18)
- ・練習番号【K】からの二拍三連のリズムを「豊かで正確に」吹くことも大切です。パートだけでなく、同じ動きのあるパートの人とも一緒にリズムを揃える練習をしましょう。(参考教材JBCバンドスタディ No.24)
- ・余韻が残らないようにしたい場面も多いので、息や舌の使い方を工夫してポップスらしい奏法を研究してみてください。

## Ⅳ マーチ「ペガサスの夢」

作曲：水口透

- ・メロディと伴奏の時の吹き方にメリハリをつけることがポイントです。伴奏は八分音符の刻みが重くならないよう、間の八分休符を意識して軽さを出していきましょう。メロディを超えない音量でコントロールすることも大切です。
- ・8分の6拍子を正確に吹けるように、様々なリズムパターンでの基本練習をしましょう。(参考教材 JBCバンドスタディ No.21)
- ・伴奏の時は、スネアドラムの音を意識しながら演奏すると縦のラインが合いやすくなります。
- ・135~136小節目のフレーズは、しっかりクレッシェンドをかけてバンドを盛り上げていきましょう。